

共同研究室

昭和五二年度第六回研究会(七月一日)

▼テーマ 独占と景気循環の変容

報告者 北野正一氏

報告概要

景気循環の形態と経済行動

問題 景気循環の形態に作用を及ぼす諸要因を抽出し、それが景気循環の形態に及ぼす効果を分析する。

モデル $y=C+I=RN+A+I$ $\dot{A}/A=n>0$ (記号は後述)

$N=ly$ $y=\delta_0 K$

$\dot{K}=I-\lambda K$

$\dot{N}_1/N_1=n$

$\dot{g}_d=\beta(\delta-\delta^*)$ $g_s=\sigma\delta-A/K$ $g=I/K$

$$\left\{ \begin{array}{l} N < N_1 \\ g_d > 0 \\ g_d < 0 \end{array} \right\} \begin{array}{l} \text{たかひば} \\ \text{たかひば} \\ \text{たかひば} \end{array} \quad \left\{ \begin{array}{l} g = g_d \\ g = 0 \\ g = g_s \end{array} \right.$$

たかひば

$$S_1 \begin{cases} \dot{x} = (g^* - g)x & g^* \equiv n + \lambda \\ g = g_d = \frac{\beta}{\sigma\delta} (x + g - \sigma\delta^*) & x \equiv A/K \end{cases}$$

$$S_2 \begin{cases} N_1 = N = l\delta_0 K \\ g = g_s = \sigma\delta - x \end{cases} \rightarrow g = Cx \quad C = \text{一定}$$

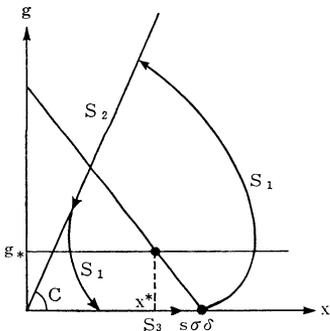
但 $g_d > g_s$ の限り、

$$S_3 \begin{cases} g = 0 \\ \sigma\delta = x \end{cases} \quad \text{但 } g_d < 0 \text{ の限り、}$$

S_1, S_2, S_3 を含む場合の運動

その他

- 。 $g^* = n + \lambda > \sigma\delta^*$
- 。 S_2 を含まない場
合、天井に到らず
- に下方へ反転
- 。 S_3 を含まない場
合、底に到らずに
上方へ反転
- 。 S_2, S_3 を含まない



場合、底には到らずに上方へ反転

パラメーターの作用（計算結果のみ）

(1) $g^* = n + \lambda$ がより高い場合。

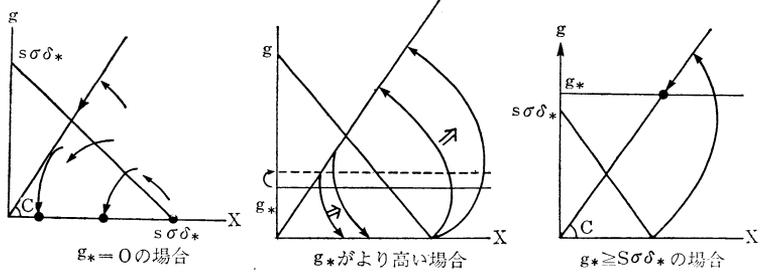
。 $g^* \geq s\sigma\delta^*$ となる時
(Harrod の $G_w \wedge G_n$ の場合に相当) 完全雇用へ到達すれば、そこに留まり、 g は g^* へ収束してゆく。

。 $g^* > \delta^*$
。 $g = 0$ の場合
底へ落ち込めばそこで停止してしまふ。

。 $g = x$ 平面で軌跡が右側へ移動する。
完全雇用到達点における稼働率の最小値は大きく

g と δ の値は高くなる。

共同研究室



なる。

底 ($g=0$) は距離も経過時間も短縮する。

上方への発散性は強まり、下方へのそれは弱まる。好況局面がより支配的になる。

(2) 貯蓄率 s の効果 (より高い場合)

。 $x + g = s\sigma\delta^*$ の上方 shift
 S_1 経路の傾き up。
各点に於る運動方向

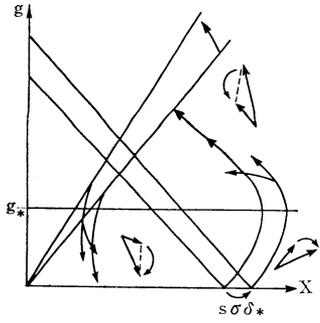
。最大失業率は増す。
 g の上界局面では、

上昇速度は低下し、稼働率へ抑制的に作用す
 α ($g > g^*$)

g の下落局面 ($g \wedge$)

g^* で、下落速度を増加させ、 δ へ抑制的作用を及ぼす。
上方の発散性を弱め、下方へは逆。

(3) β : 投資の反応係数、より高い場合
上下共、運動速度は速まり、発散性は強まる。



S_2 から S_1 への切替がより高い s において実現する。

* 記号

Y …総生産、 C …消費、 I …粗投資、 R …実質賃金率、 N …雇用、 A …資本家の独立消費、 δ …稼働率、 σ …産出係数、 K …資本ストック、 λ …設備の廃棄率、 N_s …労働供給量、 g …現実の蓄積率、 g_d …資本家の望む蓄積率、 g_c …完全雇用によって制約された蓄積率、 s …剰余率(非零状態)

昭和五二年度七回研究会(七月八日)

▼テーマ 現代ソ連経済と民主主義

報告者 小野一郎氏

報告に加筆したものを左記の論文にまとめて発表したの
参照して頂きたい。

「現代社会主義の経済体制と民主主義——ソ連における効
率・分権・参加の問題をめぐって——」(季刊『現代と思想』
第二九号、一九七七年九月所収)